



I 第20週の発生動向 (2026/5/11~2026/5/17)

1. 警報・注意報は発令されていません。
2. 日頃から手洗いや咳エチケット等の基本的な感染対策をお願いします。

※現在、国及び国立健康危機管理研究機構が警報・注意報の基準値について確認を進めているところですが、県の週報に記載する発生動向では、当面の間、従前の基準値を用いて注意喚起を行います。

<感染症の窓>

今週のテーマは「重症熱性血小板減少症候群」です。

最終ページに掲載しています。

II 第20週五類定点把握対象疾患

※記載データは、速報値です。

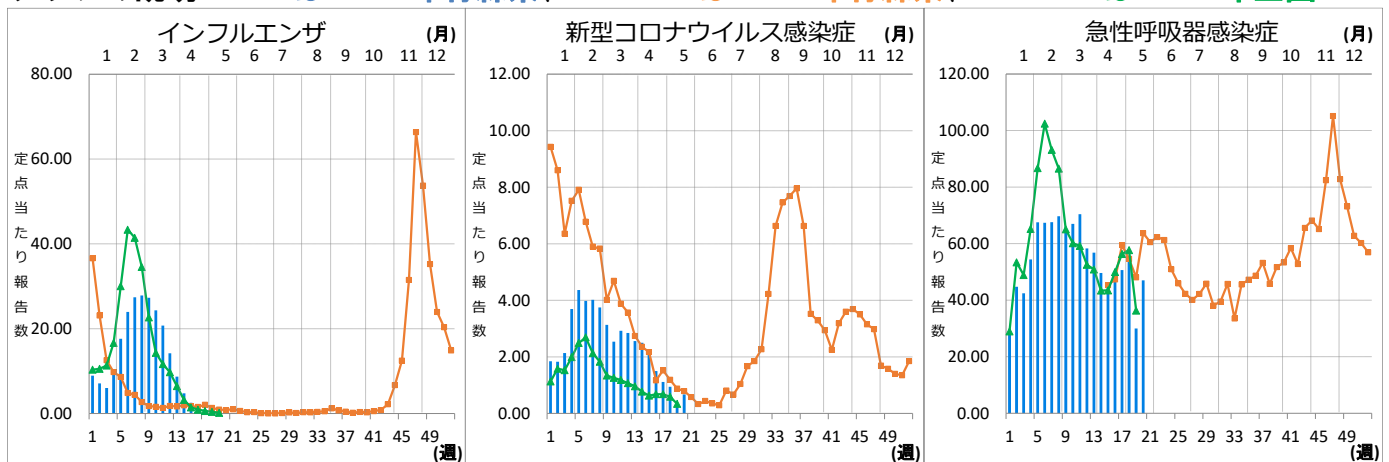
青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

は警報、は注意報、「空欄」:患者報告無し。

	東青 (東津軽+青森市保健所)		中南 (中南保健所)		三八 (三戸+八戸市保健所)		西北 (西北保健所)		上北 (上北保健所)		下北 (下北保健所)		青森県計		前週からの増減 数	
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		
急性呼吸器感染症	インフルエンザ	5	0.45	2	0.20	1	0.10			1	0.11			9	0.17	-2
	新型コロナウイルス感染症	9	0.82	3	0.30	11	1.10	10	1.67	1	0.11	1	0.17	35	0.67	21
	急性呼吸器感染症	607	55.18	339	33.90	425	42.50	279	46.50	365	40.56	430	71.67	2445	47.02	916
小児科	RSウイルス感染症	4	0.67	1	0.17			1	0.20					6	0.18	-6
	咽頭結膜熱	2	0.33			8	1.14							10	0.29	5
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	28	4.67	10	1.67	11	1.57	3	0.60	9	1.50	7	1.75	68	2.00	34
	感染性胃腸炎	23	3.83	22	3.67	32	4.57	41	8.20	2	0.33	4	1.00	124	3.65	53
	水痘	2	0.33	1	0.17	3	0.43	1	0.20					7	0.21	-3
	手足口病	1	0.17			1	0.14							2	0.06	2
	伝染性紅斑															0
	突発性発しん			1	0.17	4	0.57	3	0.60	2	0.33			10	0.29	1
	ヘルパンギーナ															0
	流行性耳下腺炎															0
眼科	急性出血性結膜炎															0
	流行性角結膜炎															0
基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)															0
	クラミジア肺炎															0
	細菌性髄膜炎															-1
	マイコプラズマ肺炎							1	1.00					1	0.17	0
	無菌性髄膜炎															0

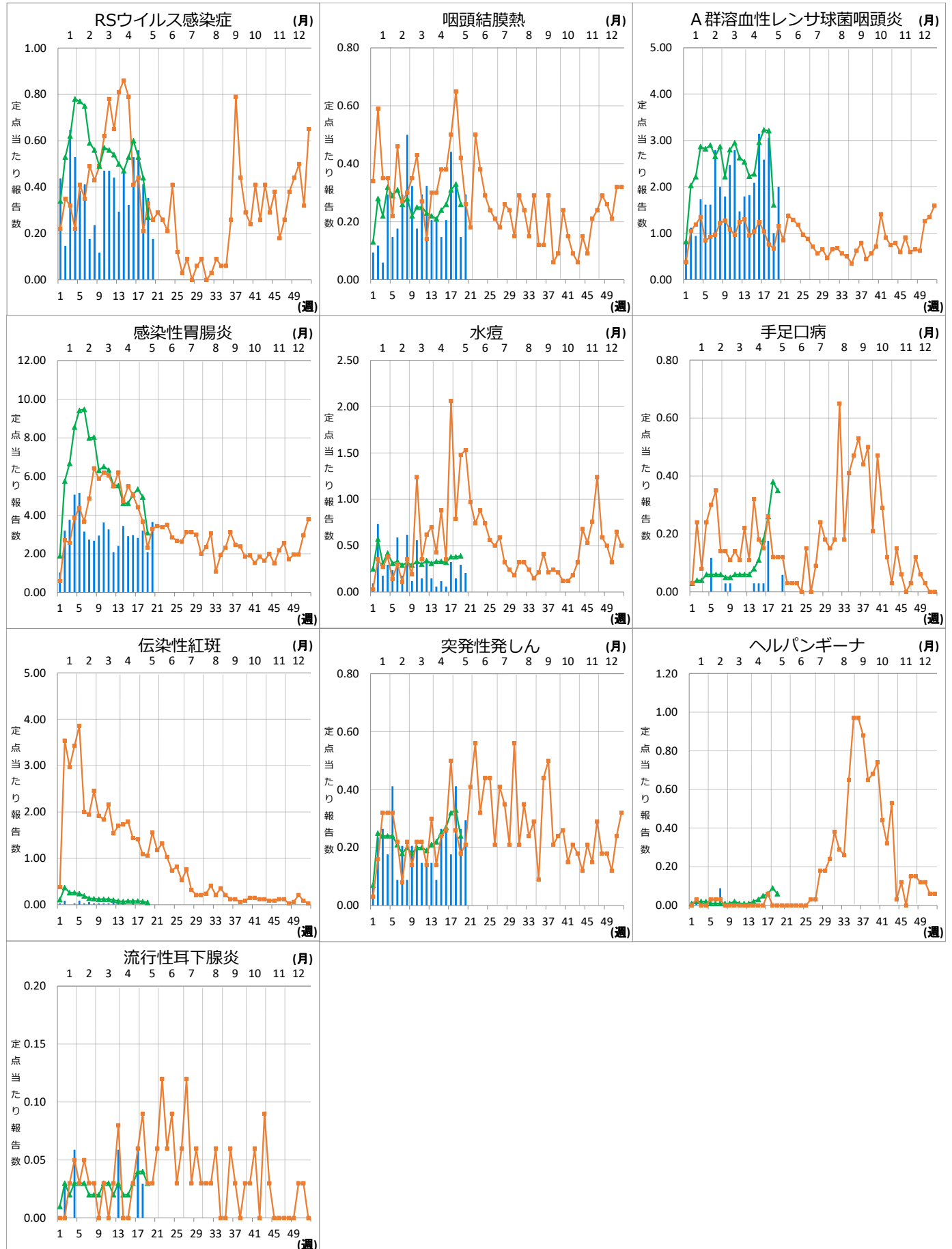
III 定点把握対象疾患週別推移 (急性呼吸器感染症定点) (2026年第20週、ただし全国は前週)

グラフの説明 〇—は2026年青森県、■—■は2025年青森県、▲—▲は2026年全国



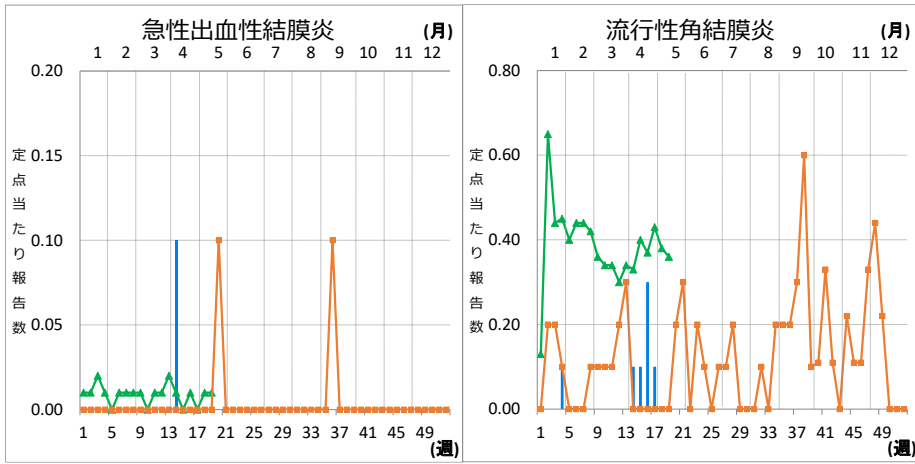
IV 定点把握対象疾患週別推移（小児科定点）（2026年第20週、ただし全国は前週）

グラフの説明 は2026年青森県、 は2025年青森県、 は2026年全国



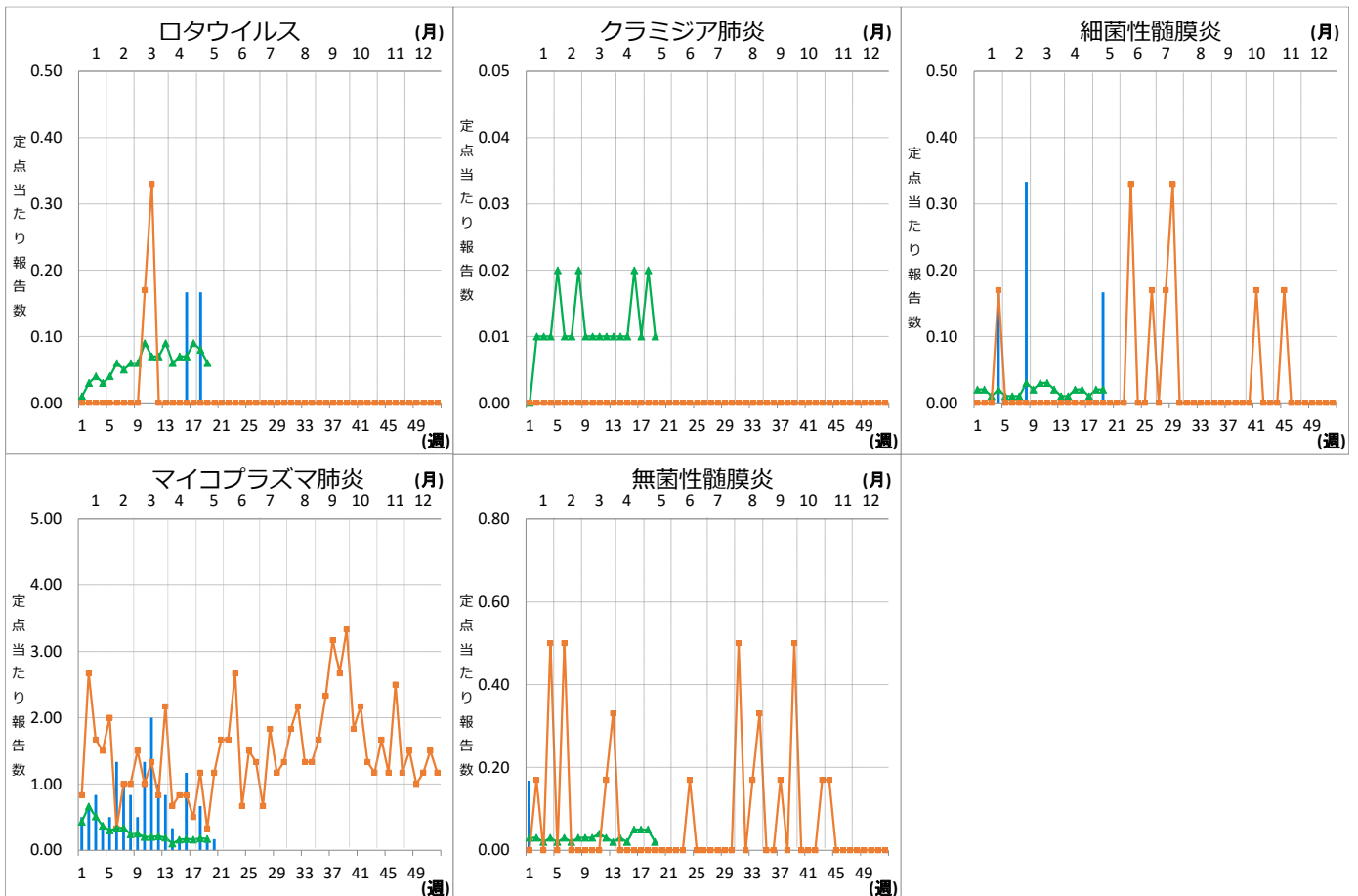
V 定点把握対象疾患週別推移（眼科定点）（2026年第20週、ただし全国は前週）

グラフの説明 —■—は2026年青森県、■—■は2025年青森県、▲—▲は2026年全国



VI 定点把握対象疾患週別推移（基幹定点）（2026年第20週、ただし全国は前週）

グラフの説明 —■—は2026年青森県、■—■は2025年青森県、▲—▲は2026年全国



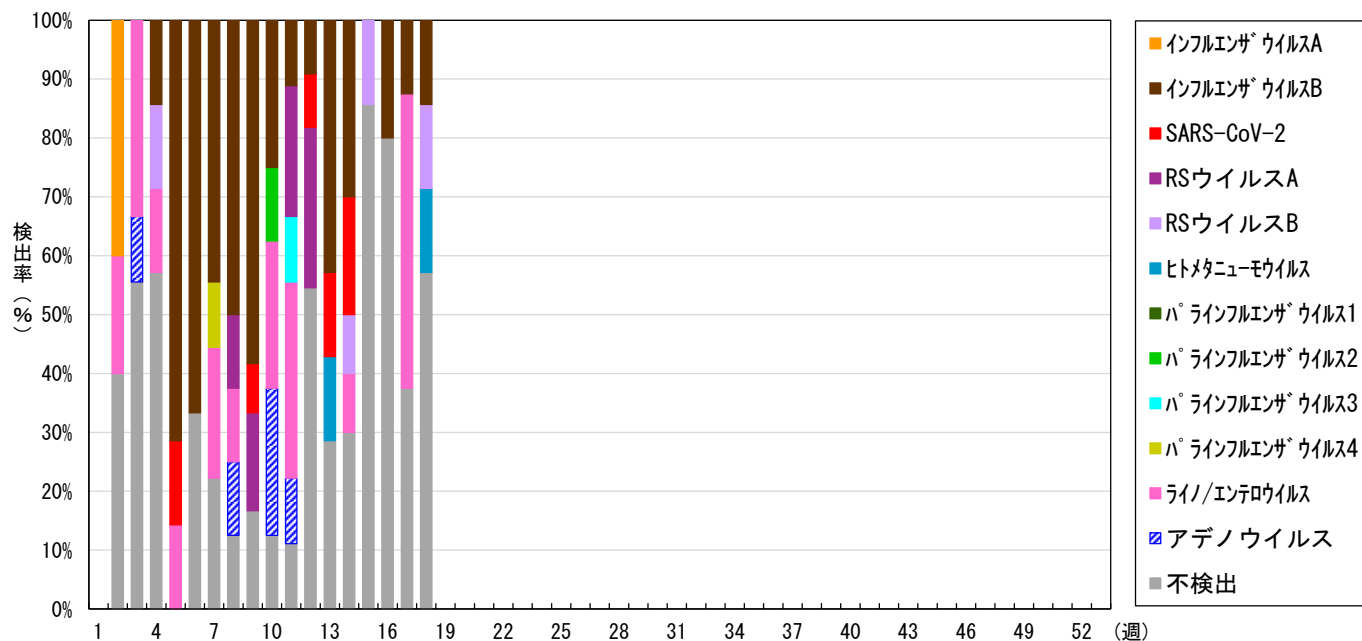
## Ⅶ 急性呼吸器感染症(ARI)病原体検出情報

### (1) 急性呼吸器感染症病原体定点からの提出検体数及び結果判明分 (2026年第13週～20週)

急性呼吸器感染症	2026年							
	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週
提出検体数	7	10	7	5	7	7	0	6
インフルエンザウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	0
インフルエンザウイルスB	3	3	0	1	1	1	0	0
SARS-CoV-2	1	2	0	0	0	0	0	0
RSウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	0
RSウイルスB	0	1	1	0	0	1	0	0
ヒトメタニューモウイルス	1	0	0	0	0	1	0	0
パラインフルエンザウイルス1	0	0	0	0	0	0	0	0
パラインフルエンザウイルス2	0	0	0	0	0	0	0	0
パラインフルエンザウイルス3	0	0	0	0	0	0	0	0
パラインフルエンザウイルス4	0	0	0	0	0	0	0	0
ライノ/エンテロウイルス	0	1	0	0	4	0	0	0
アデノウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0
不検出	2	3	6	4	3	4	0	0
検査待ち	0	0	0	0	0	0	0	6

※第17週に提出された検体のうち、インフルエンザウイルスB及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

### (2) 検出された病原体の週別推移 (2026年第1週～19週)



### Ⅷ 全数把握対象疾患発生状況（第20週）

- ・結核（二類感染症）：東津軽1人、青森市2人、八戸市1人、西北1人、上北2人（2026年計：35人）
- ・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症（五類感染症）：中南1人（2026年計：1人）

### Ⅸ 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況（2026年第17週～2026年第20週）

週	東青 (東津軽保健所+ 青森市保健所)	中南 (中南保健所)	三八 (三戸保健所+ 八戸市保健所)	西北 (西北保健所)	上北 (上北保健所)	下北 (下北保健所)
17	梅毒1人	結核2人 侵襲性肺炎球菌感染症1人	百日咳1人		結核1人	結核1人
18	梅毒1人	劇症型溶血性レンサ球菌感染症1人	結核1人 百日咳1人		腸管出血性大腸菌感染症1人	結核2人
19					結核1人	
20	結核3人	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症1人	結核1人	結核1人	結核2人	

**X 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）**（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

**全国**（2026年第1週～第19週までの累計）

分類	二類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノкокクス症	エムポックス	オウム病
累積報告数	4886	30	702	13	5	236	77	6	52	1
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類
疾病名	コクシジオイデス症	重症熱性血小板減少症候群	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎	マラリア	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢
累積報告数	2	39	45	29	45	2	13	612	4	169
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症
累積報告数	66	344	8	166	4	61	534	307	12	203
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	多剤耐性緑膿菌感染症	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん
累積報告数	23	1207	281	37	3873	68	33	35	2708	1
分類	五類	五類								
疾病名	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症								
累積報告数	479	6								

**青森県**（2026年第1週～第20週までの累計）

分類	二類	三類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	A型肝炎	アメーバ赤痢	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症
累積報告数	35	7	3	1	1	2	6	1	4	8
分類	五類	五類	五類							
疾病名	水痘(入院例)	梅毒	百日咳							
累積報告数	6	6	18							

**XI 病原体検出情報**

報告はありませんでした。

## Ⅷ 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

2026年第20週

報告週	施設種別	発症者数	管轄保健所
第20週	報告なし		

2026年報告件数及び発症者数

施設種別	月(週)	1月	2月	3月	4月	5月						6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計 (施設別)
		1-5週	6-9週	10-13週	14-17週	18週	19週	20週	21週	22週	23-26週	27-31週	32-35週	36-39週	40-44週	45-48週	49-52週		
介護・老人福祉関係施設	件数	2	2	6	2	1	2	0											15
	発症者数	37	44	69	23	13	29	0											215
児童・婦人関係施設等	件数	4	0	1	3	1	1	0											10
	発症者数	92	0	30	73	13	11	0											219
障がい関係施設	件数	1	0	1	0	0	0	0											2
	発症者数	20	0	18	0	0	0	0											38
その他施設	件数	0	0	0	0	0	0	0											0
	発症者数	0	0	0	0	0	0	0											0
計(月別)	件数	7	2	8	5			5											27
	発症者数	149	44	117	96			66											472

## 感染症の窓

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）は、主にSFTSウイルスを保有しているマダニに刺されることにより感染するダニ媒介感染症です。

主な初期症状は、発熱、全身倦怠感、消化器症状で、重症化すると死亡することもあります。

SFTSは、西日本を中心に患者が報告されていましたが、徐々に患者が確認された地域が広がっており、2025年には関東や北海道で感染したと推定される症例が報告されています。そのため、全国的に感染リスクがあると考えられ、SFTS患者の発生が確認されていない地域においても注意が必要です。

SFTSの予防には、マダニに刺されないようにすることが重要です。特に、マダニの活動が盛んになる春から秋にかけてはマダニに刺されるリスクが高まることから、草むらや藪など、マダニが多く生息する場所に立ち入る場合には、長袖・長ズボン、足を完全に覆う靴、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、肌の露出を極力少なくしましょう。また、屋外活動後は入浴し、マダニが付いていないか確認してください。とくに、首、耳、わきの下、足の付け根、手首、ひざの裏などがポイントです。マダニに吸血された場合には、無理に引き抜こうとせず、皮膚科等の医療機関で、適切な処置を受けてください。

○詳しい情報はこちらをご覧ください。

[重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関するQ&A（厚生労働省HP）](#)



## 重症熱性血小板減少症候群

Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome : SFTS



出典：国立感染症研究所ウェブサイトから一部抜粋